

伊万里市剣道少年団「日韓親善少年剣道交流事業」が「高円宮賞」受賞

一般財団法人「高円宮記念日韓交流基金」主催

東京韓国文化院にて財団名誉総裁 高円宮久子妃殿下より拝受。

「日韓親善少年剣道交流事業」は、武道を通じた少年の健全育成を目指し、^{テフ}大邱大学顧問の協力により釜山を訪問して以来20年間、毎年交互に小中高生の剣道交流とホームステイなどを行っている体験交流です。

20年間にわたって民間主導で継続されている活動で、剣道を通じて人として守るべき礼節の大切さを知ると共に国際理解の場となっています。



このように、草の根レベルで、日韓青少年の教育・スポーツ分野での交流に貢献し、成果をあげたことが高く評価され受賞されました。



高円宮妃殿下より高円宮賞を授与(東京・韓国文化院)



一般財団法人「高円宮記念日韓交流基金」とは

日本と韓国の友好に尽力された故高円宮殿下を記念し、韓国パートナーシップに基づく教育・文化・スポーツを中心とした青少年交流及び学術交流などの顕彰・助成等を通じて将来志向的な日韓関係を構築することを目的に2008年12月に設立されました。

多文化交流事業「焼ものの体験交流」を開催

伊万里市では、この10年間で在留外国人の数が1.5倍になり、身近な生活圏でも国際化が進んでいると思われる。外国籍の住民は、日々の暮らしの中で地域との関係が希薄になりやすいため社会の情報から取り残されがちで、独り暮らしの老年者や、高齢者世帯などと同じく生活弱者となりやすい状況です。今、地域の中で孤立する外国人をつくらぬよう、地域に住む外国人の方々と同様なスタイルで交流し、共生の輪を広げていきたいものです。

外国の文化、日本の文化をお互いに理解しあうためのきっかけづくりとして、多文化交流事業を開催しました。

7月12日曜日、伊万里市国際交流協会の主催により中国・アメリカ・カナダ等、外国籍の住民8人と会員等が焼ものを通じた体験交流を行いました。皆でナン生地をこね、直火で焼く棒巻きパンを焼いたほか、唐津焼窯元今岳窯のご協力で陶器の成形にも挑戦。



交代でナン生地をこねる。



棒巻きパンを焼いて食べる。



粘土の扱いを学ぶ。



真剣な作陶風景。